

■…西登山道の花たち…■



ヤマアジサイ



ヤマホタルブクロ



イブキトラノオ



ハクサンフウロ



殻が1cmほどのヒルゲンドルフマイマイ

初夏の西登山道くヤマアジサイ

☑名前の由来を知ろう

7月初め、伊吹山山頂駐車場から西登山道をゆっくりと歩くと、ヤマホタルブクロやイブキトラノオ、ハクサンフウロ、オオバギボウシなどの花々に出逢うことができます。

ヤマホタルブクロは、和名で「山蓑袋」、昔、子どもが広鐘形の

伊吹山

やまはな便り

3



伊吹山ネイチャーネット
ワーク事務局長

山下 吉和

花の根元には珍しいカタツムリがいるかも

大きな花にホタルを入れて遊んだかもしれないと想像してつけられた名前です。単の入った「ホタルブクロ」を思い描くと、なるほど、何とも温かく幻想的な世界へと誘われていきます。こんなふう

に植物の名前の由来を知ると、その花にも親しみがわいてきます。また、7月も中旬になると、この西登山道の斜面を彩る花にヤマアジサイがあります。白色、青色、淡紅色と変化に富み、在来種特有の素朴な美しさです。

一般にいう「アジサイ」の歴史は古く、万葉の時代にまで遡ります。時代を越えて愛され続けたアジサイ、その魅力は色だけではなく、その咲き方(手まり咲き、額ぶち咲き)にあるのかもしれない。そして、恋文にしたくなるような感性は、古人も現代人も同じではないでしょうか。

☑カタツムリの生息地

さて、みなさんは伊吹山と聞いて、どんな生きものを連想されるでしょうか？実は伊吹山は、高山性の気象条件と石灰岩を豊富に産することから、これまでに80種を超える陸産貝類(カタツムリの仲間)が確認され、日本でも有数の生息地として知られています。

なかでもヒルゲンドルフマイマイは、殻が1cmと小さく光沢のある茶色をしています。伊吹山で最も多く見られるカタツムリです。運がよければ伊吹山の特産種やコビマイマイや伊吹山で最も大きなイブキクロイワマイマイにも出逢えるかもしれません。伊吹山にお越しの際は、花だけではなく、茎や葉、根元にも注目してください。小さくても、じっとしていても、その生き生きとした姿に心動かされることでしょう。